

「自粛中の Zoom ミーティング」



新型コロナウイルスで自粛中に「何かできない？」のひと言から始まった Zoom ミーティングです。会えなくても画面をとおして会うと、いつもと違った世界感になり話がはずみましたが、話の内容はやはり情報保障についてです。コロナ感染拡大防止の中、3密を避けたリモート会議の情報保障について考えました。

まず初めに Zoom 会議を想定して、Zoom 機能にあるコメントで情報保障をすることを思いつき、

文字の大きさは？入力は誰がする？担当を決める？

話す人がコメント欄に入力しながらしゃべるの？・・・

飛び出す機能もあるよ～～～

そして誰かが字幕で情報保障することに気づきました。早速試しましたが、入力の担当を決めて1人入力になります。次は、画面共有でホワイトボード等々使えるものを次から次へと試しました。

そうしているうちに、遠隔支援サイト captiOnline (キャプティオン) を教えていただき知りました。早速 Zoom の仲間が申請をして部屋ができました。

captiOnline を使えば、Zoom 会議の情報保障は連係入力することができます。実際に連係入力の練習をしてみると、とても便利なツールでした。今まで連係入力の練習が難しかったのですが、Zoom 機能を使って音源を聞きながら、連係入力の練習がこんなにも簡単にできることに驚きました。

次に、全要研からの「Web会議システムZoomを使った会議での要約筆記を行う方法」のお知らせがあったので即試してみました。初めは上手くできませんでしたが、Zoomで話しながら進めていくうちに交代も上手くできるようになり、共有することができました。これは、IPtalkを使って画面共有しての情報保障で1人入力です。入力方法は連係入力に慣れているので、captiOnlineの方が使い勝手がいいようです。今後、captiOnlineで連係入力の練習を積み重ねて情報保障に活用していきたいです。

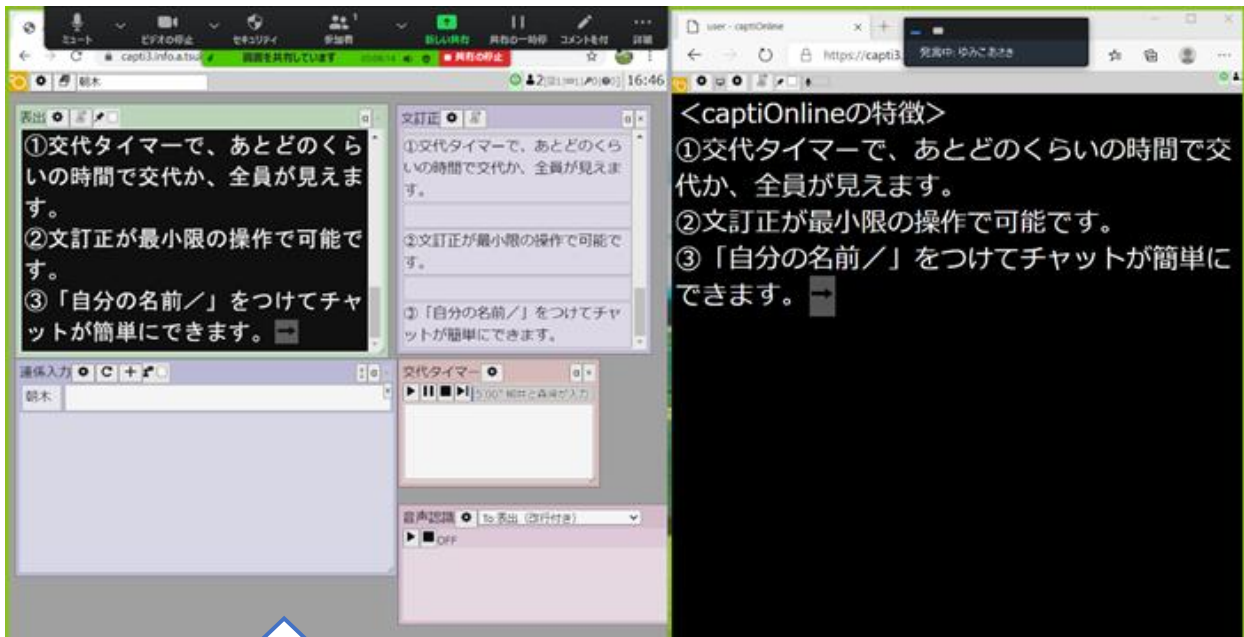
充実した自粛生活を送れたのは、Zoom ミーティングに参加してくださった皆さんと一緒に、新しいことに挑戦できたからです。ありがとうございます。

これからも Zoom 学習会続けて行けるといいですね！

(仲摩 由美子)

パソコン遠隔学習の神パートナー
キャッシュオンライン
captiOnline の紹介

「captiOnline」という遠隔支援ソフトを使用し、連係入力の練習をしています。これは普段派遣で使用している「IPtalk」に近い使用感です。メンバーと「Zoom」の共有機能を使って、画面や音源を共有しています。



パソコンの画面左半分に、入力用画面（表示、連係入力、文訂正、交代タイマー、音声認識）画面右半分に閲覧用画面を（Zoom の共有画面を使用して）表示した例

captiOnline は筑波技術大学の若月大輔教授が提供してくださっている無料のソフト。ネット環境さえあれば、特別な機材やアプリのインストールは一切不要で、情報保障用の LAN（ローカルエリアネットワーク）が作成可能。

パソコンで遠隔学習会をやってみようと、試行錯誤を重ねて、みんなで少しずつ理解を深めていっています。遠隔のいいところは、なんととっても、大分の仲間と、愛知にお住まいの先輩が、まるでみんな同じ部屋にいるかのようにつながって練習ができてしまうことです。日時を申し合わせておいて、Zoom でつながることで、先輩から要約のアドバイスをいただいたり普通に一緒に学習会ができることは、人材に限りがある現状で、強力なバックアップです。

実際に集まるより労力が少なく済むので、毎週火曜の晩に定期的に行えています。そのため、最新情報をキャッチしたN先輩が、すぐに「みんなで試してみよう！」とリードしてくれて、興味深い話題に引き込まれ、ついつい時間延長してしまうのが、玉に瑕でしょうか。

（朝木 由美子）